授業科目	疾病・回復論Ⅱ	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	2年次前期	1	講義・演習	30時間

到達目標		講師
	1.リハビリテーションの概念について理解できる。 2.リハビリテーションを受ける対象について理解できる。 3.リハビリテーションに携わる多職種の役割や専門性について理解できる。 4.リハビリテーションの実際について知ることができる。 5.医療機器を安全に使用するための基本的知識を理解する。 6.放射線を使った検査や治療について理解する。 7.放射線被爆防止や安全管理について理解する。	理学療法士 臨床工学技士 放射線技師

授業計画

1回	リハビリテーション概論	理学療法士 （16時間）
2回	リハビリテーション概論	
3回	リハビリテーションの実際　運動器系の障害とリハビリテーション　演習	
4回	リハビリテーションの実際 中枢神経系の障害とリハビリテーション　演習	
5回	リハビリテーションの実際 呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション　演習	
6回	リハビリテーションの実際 感覚器系の障害とリハビリテーション　演習	
7回	リハビリテーションの実際　小児のリハビリテーション	
8回	地域リハビリテーション	
9回	医療機器の安全　1）医療機器使用時の電気的安全　2）医療ガス・医療ガスの設備　人工呼吸器の使用方法	臨床工学技士 （4時間）
10回	医療機器の原理と実際 持続吸引装置　除細動器　輸液ポンプ　シリンジポンプ	
11～ 12回	放射線医学の成り立ちと意義 1）放射線とは　2）画像診断の役割　3）放射線治療の役割	放射線医師または放射線技師 （10時間）
13回	画像診断	
14回	画像診断　放射線治療	
15回	放射線治療	

評価方法	修了試験　選択肢又は論述問題による筆記試験（100%） 理学療法士（60%）、臨床工学技士（10%）、放射線医師または放射線技師（30%）を総合して評価する
教科書	理学療法士：　系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院 臨床工学技士：　系統看護学講座　専門　基礎看護学④　臨床看護総論 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院 放射線技師：　系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院
備考	予習においてはテキスト、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。復習においてはテキスト・講義資料・参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。